坂場　それにね、最近は市町村で子供の為に公園を整備したり、遊園地をあちこちに作っていて、それはそれでいいんですが、子供にとっては人為的に作られた設備はそう面白がらないものなんですよ。何事もない藪の中や川べりや、穴の中なんかに、何かあるんじゃないかいと思う、そんなことが子供に喜びを与えるんですね。

佐賀　そう。話は前に返りますが、車だけじゃなくて、最近はいろんな意味で、子供の世界が奪われてますね。僕が子供の頃は他人の家の屋根に登ったり、立木によじ登ったり、木の葉の中に隠れたりしても誰も怒る人はいなかった。庭ん中をどやどやと列を作って通り抜けたりしても、何にもいわれなかったんですよ。

坂場　そう。自分の家と隣の家との間にブロックベイや立派な垣根を作るというように、プライバシーとか権利とかの主張がやかましくなかったですね。お茶が入ればお茶を近所の人と一緒に飲む。花を観賞する、むだ話をする。そんなのんびりした世界があったような気がするんですがね。今よりももっと開放的で、大人も小人もゆったり生きていたようですね。物や土地などに対する権利意識が強くなってくるにつれて、そんな世界が失なわれていくというのは情けないですね。

佐賀　こう考えてくると、子供達は、現在の社会の歪みをもろに被っている犠牲者だということが出来ますね。遊び場であり、コミュニケーションの場であった道路も空地も奪われる。隣との境にはブロックベイが設けられる。その上空気が汚れて、一呼吸ごとに胸の中を汚されている。夏になっても、光化学スモッグ注意報が出れば、窓を閉めて、家の中で静かにしていなさいといわれる。川はどぶだし、湖の魚すら食べるのも躊躇しなければならない程汚れてしまった。こんな世の中に育っていく子供達に、自由ではつらつとした心をもった大人になれったって、そりゃ無理ですよ。子供が外へ出て行く時に、一番先に親の口から出る言葉が「車に気をつけなさいよ！」でしょうが、一、二時間も姿が見えないと、車にひかれたんじゃないかと心配になってくる。ところが一昔前までは、子供が家の中でごろごろしていたりしたら、病気じゃないかと心配したもんですよ。夕暮になって、どろだらけの手と足で帰って来て、はしを持つのもやっとぐらいに眠くて風呂にも入らずに眠ってしまう、そんな子供時代を今のこどもらにもかえしてやりたいですねえ。

坂場　確かに私らの子供の頃は、遊ぶことに夢中になっていましたね。遊びに夢中になって時を忘れる。そん